第　五　章

結論及び今後の課題

A. 結論

前章で行われたデータの提示や分析のまとめとして、本章では全てのデータの分析にまとめられることを記述する。本章では研究の結果として、次のことがまとめられる。

1. 終助詞は表現に色を付けるように使用され、終助詞の機能によって表現に感じられるニュアンスも異なる。処理されたデータの中には「～ね」（～かね、～よねを含む）及び「～よ」（～かよ、～わよを含む）の終助詞が他の終助詞よりしばしば使用される。「～かなあ」も間接依頼に使用されるが、本データには間接依頼を表すより独り言に使用されるのが多い。

2. インドネシア語では次の会話に見られるような間接依頼表現がよく使われる：

例文（1）

場面：ある日、一人の院生は学科の事務室で先生と日本人の教授と相談している。話しの最中に、当ビルの給仕人が注文された二人分の昼食を持って来た。

先生　　：あ、昼ごはん来た、来た。でも、二人分しかないんだけ

ど…。どうしようかなあ…（a）

院生　　：あ、どうぞ、ごゆっくり。もし、教授、時間が空いたら、お昼ごはんのあと、また教授とご相談をさせていただきたいんですが…。

先生　　：あ、そう。じゃあ、1時ごろまた来なさい。（b）

上の会話では、先生の発話（a）は、疑問文や聞き手にアドバイス求めるような形をしている。しかし、場面を参考にして考えれば、その先生の発話では「教授と昼ごはんをするから、あとでまた来なさい」というメッセージが埋め込まれる。先生の（b）の発話と比較すれば、表層的に「命令表現」だと判定できる上に、聞き手が（a）の発話で埋め込まれるメッセージ把握したため、二度と間接的に発話する必要はない。これは上下関係の位置にも関係があるのではないかと考えられる。

上の会話のような場面に基づきの表現に関しては、データには見つけ出さなかったが、森山卓郎の『コミュニケーション力をみがく』という図書に載せてあった。その図書で述べたように、京都の社会では「お茶付け」という人を間接的に追い出しに使う表現が使われていた。その表現には「私は他の用事があるから、はやく帰ってください」というメッセージが埋め込まれるため、聞いた人は「ちょっと、用事がありますのでそろそろ帰ります」と申しだすことは礼儀正しいと言われる。

3.　　間接依頼表現に対して、人によって様々な解釈が生み出されるため、誤解を生む可能性が高い。そのことを抑えるために、話し手と聞き手は発話の環境、特に語用の環境に同所にいないといけないのである。

4.　　日本語教科書における間接依頼表現に関しては、一般的に漫画における間接依頼表現とはあまり違いないである。しかし、教科書では間接依頼表現は中心的な教材として扱われるのではなく、各課に学ぶ文型や話題を仕上げとして紹介される。それゆえ、文型は硬い表現が多い、コミュニケーション原則の違反を起こさないように、学習者に集中して表現が整形される。

B. 今後の課題

分析作業では、聞き手を動かせる発話行為は必ずしも聞き手に気持ちを優先する表現で伝えるのではない。その例としては、次の会話を見てみよう：

例文（2）

場面：九能は前からあかねが好きで、学校で乱馬があかねのそばに立っているとき、九能は腹を立ててしまった。乱馬はあかねのいいなずけだということを分かったら、九能が前より倍数腹を立ててしまった。それ以来、九能はいつも乱馬にあかねをかける勝負を売ったり、攻撃したりする。ある日、学校に遅刻してしまったあかねと乱馬は先生に教室の前で立たせられた。突然九能が乱馬とけんかを売って攻撃しはじめた。乱馬は九能がもっと拾い場所へ付いてくるように窓から飛び降りた。

しかし、乱馬は下にはプールがあると気づかなかった。乱馬と九能が直接プールの方に落ちってしまい、九能はしばらく気絶しているうちに女性になった乱馬は正体がばれないようにその機会をうまく

利用して逃げた。

乱馬　：なんだよあかね。
あかね:ほんっとにあんたってバカね。自分からプールに飛びこむなんて。
乱馬　：うるせ―。ば―か、ば―か。
あかね:へ―。(熱湯が入れてあるやかんを見せながら)捨てちゃお―かな、
　　お湯。
乱馬　：あ！ばか！いじわる！

らんま½、104

上記の会話では、あかねは乱馬の命に対する心配を表すために「ほんっとにあんたってバカね。自分からプールに飛びこむなんて。」という表現で表し、心配をかけられたため「けががなくてよかった。今度は奏しないでください」という表現の代わりに「ほんっとにあんたってバカね。」という表現で伝えた。なお、乱馬も「お湯をください」という表現を使用せず、男に戻れるように必要な熱湯をあかねに頼むときにもいい表現ではなく「あ！ばか！いじわる！」という表現を使う。

ここでは話し手及び聞き手の関係が親しくないといけないことは明らかになったが、今後の研究では、その中にどれぐらいコミュニケーションの違反があるのかに関して明らかにしたい。

引用文献

Alwasilah, A. Chaedar. (2006). *Pokoknya Kualitatif*. Jakarta: PT. Dunia Pustaka Jaya (定性研究法)

Alwi, Hasan dkk., 1998. *Tata Bahasa Baku Bahasa Indonesia.* Jakarta: Balai Pustaka. (インドネシア語標準文法)

Brown, Gillian dan Yule, George. (1996). *Discourse Analisys (Analisis Wacana)*. Jakarta: PT. Gramedia Pustaka Utama (談話分析)

Bungin, Burhan. (2004). *Metodologi Penelitian Kualitatif*. Jakarta: PT. Raja Grafindo Persada (定性研究法)

Chaer, Abdul dan Leonie Agustina. (1995). *Sosiolinguistik*. Jakarta: Rineka Cipta (社会言語学)

Chaika, Elaine. 1982. *Langage The Social Mirror.* Massachusetts: Newbury House Publiher Icn.

Cole, P. and Y. L. Morgan. (1975). *Syntax and Semantics* volume III *Speech Acts*. New York: Academic Press

Djadjasudarma, T. Fatimah. (2006). *Wacana - Pemahaman dan Hubungan Antarunsur* -. Bandung: PT. Refika Aditama (談話－成分関係の理解)

Gunarwan, Asim. 1992. *Persepsi Kesantunan Direktif di dalam Bahasa Indonesia di antara Beberapa Etnik di Jakarta*, dalam Kaswanti Purwo (ed.) *Bahasa dan Budaya*. Jakarta: PELBA 5.

Hashiuchi, Takeshi. 1999. *Deisukousu-Danwa no Orinasu Sekai*. Tokyo: Kuroshio.

Keraf, Gorys. (1991). *Tata Bahasa Rujukan Bahasa Indonesia*. Jakarta: PT. Gramedia Widiasarana Indonesia (インドネシア語参考文法)

Larson, Mildred. L. (1989). *Penerjemahan Berdasar Makna: Pedoman untuk pemadanan antar bahasa*. Jakarta: Penerbit ARCAN. (意味的翻訳)

Leech, Geoffery N. (1983). *Principle of Pragmatics*. London, New York: Longman (語用論の原理)

Levinson, Stephen C. (1983). *Pragmatics*. Cambridge: Cambridge University Press.

Makino, Seiichi & Tsuitsui, Michio. (1991). 日本語文法辞典. Tokyo: The Japan Times

Miles M.B., Huberman A.M. (1984) *Qualitative Data Analysis: A Sourcebook of New Methods*. Newbury Park, CA: Sage

Nasihin, Anwar. (1999). *Konstruksi Honorifik Kenjo Go dalam Bahasa Jepang*. Tesis pada Program Pascasarjana Prodi Ilmu Sastra Universitas Padjadjaran. Bandung: tidak dipublikasikan. (パジャジャラン大学大学院日本文学学科の修士論文.不発行)

Ohoiwutun, Paul. (2002). *Sosiolinguistik, Memahami Bahasa dalam Konteks Masyarakat dan Kebudayaan*. Jakarta: Kesaint Blanc (社会言語学。社会と文化言語を理解する)

Rahardi, Kunjana. (2005). *Pragmatik, Kesantunan Imperatif Bahasa Indonesia*. Jakarta: Erlangga (語用論。インドネシア語における命令の丁寧さ・婉曲)

Sudaryanto. (1993). *Metode dan Aneka Teknik Analisis Bahasa. Pengantar*

Penelitian Wahana Kebudayaan secara Linguistis. Yogyakarta: Duta Wacana University Press（言語分析法）

Sumarsono, dan Partana. (2002). *Sosiolinguistik*. Yogyakarta: Sabda（社会言語学）

Tarigan. (1986). *Pengajaran Pragmatik*. Bandung: Angkasa（語用論の教育）

Thomas. Jenny. (1995). *Meaning in Interaction: an Introduction to Pragmatics*. London/New York: Longman.（語用論への紹介）

Wijana, I Dewa Putu. (1996). *Dasar-dasar Pragmatik*. Yogyakarta: ANDI（基本語用論）

Wardhaugh, Ronald. 1988. *An Introduction to Sociolinguistics*. Oxford: Basil Blacwell.（社会言語学への紹介）

池田進一. (1994).『間接要求における理解と記憶』. 教育心理学研究、第 42 巻第 4 号、 471 - 480 ページ.

井出祥子. (1997).『女性語の世界』. 明治書院

飯野広一・恩村由香子・杉田洋・森吉直子. (2003)『新世代の言語学』. くろしお

今井邦彦. (2001)『語用論への招待』. 大修館書店

窪田光男. (2005)『第二言語習得とアイデンティティ・社会言語学適切性習得のエスノグラフィー的ディスコース分析』. ひつじ書房

佐野正之・水落一郎・鈴木龍一. (1995)『異文化理解のストラテジー』. 株式会社大修館書店

仲真紀子・無藤隆・藤谷玲子. 1982. 教育心理学研究、第 30 巻 3 号、 175

- 184 ページ

松田千登勢.(2003).『介護老人保健施設で働く看護師が痴呆性高齢者に「頼むこと」のプロセス』. 大阪府看護大学紀要、第 9 巻 1 号、39-45 ページ

森山卓郎. 2003『コミュニケーション力をみがく』日本放送出版協会

UNIVERSITAS PENDIDIKAN INDONESIA
PERPUSTAKAAN